

# 新年の



美郷町長

## 松田知己

**新**

年おめでとうございます。皆様には、豪雪から始まった年明けから国政選挙が実施された年末までを振り返り、改めて振幅の大きい一年だったことを再確認されとともに、新たな展開を期したい今年に大きな希望を見いだしていらっしゃるものと存じます。

私としても、美郷町にとりまして大きな節目だった合併10周年を無事に迎えるとともに、一般の取り組みが比較的順調に推移した昨年を振り返り、改めて皆様に感謝し、今年も着実な町勢発展を期したい意欲を確認しているところで

す。  
ところで、皆様は放浪の俳人「種田山頭火」をご存知でしょうか。その作品の一つに次のような句があります。「分け入っても 分け入っても 青い山」。九州をはじめ中国、四国を中心に放浪し、数多の句を詠んだ山頭火。この句

に詠まれた風景や込められた心情、とてもよく理解できますし、共感できます。歩いて、歩いて、一山越えてもなお続く青い山。何か、私たちの生活あるいは人生の積み重ね方にも通ずる、奥行きを感じる句です。

そして美郷町、10年前にやはり青い山に分け入りました。はじめから合併の特例期間である10年間の節目の期間として意識し、それまでに合併町としての課題を何とか解決しながら、一山を越えたい思いでがんばってきたところでおかげさまで皆様のご理解とご協力のもと、公共施設再編や学校再編など大きな課題はほぼ解決し、概ね一山越えた感があります。改めて感謝を申し上げます。一方、次なる新たな青い山も実は目の前に聳えています。その山への対応がまさに今、求められております。その山への対応目の前の青い山は、地方交付税の漸減という

山ですし、残念ながら減少していく人口を踏まえ、限られた財政の中で制度や公共施設をどう維持し、町づくりをどうするのかという山でもあります。「のほほん」とした気持ちではなく、覚悟を持って臨まなければ分け入ることのできない山です。でも、必ずや分け入って越えていかなければならない山でもあります。

そのためにも今は、大きな節目を経るの連帯感や価値観、改めて確認しておくことが必要です。その上で、もう一山をしっかりと越えてみせる意志と気概を皆様で確認し合いたいと思います。そのことが、内外に向けて安定感と意欲ある美郷町の姿の提示につながり、ひいては美郷町の発展に必ずや繋がると私は信じております。青い山は、分け入っても、分け入っても、なお連なっています。今年も皆様でがんばってまいりましょう。

# ごあいさし



美郷町議会議長

高橋 猛

**新** 年あけましておめでとうございます。気持ちも新たに新年をお迎えのことと存じます。昨年は町にとって10周年という記念すべき年でありましたが、式典の日の夕方、町民の有志による「日本酒で美郷町の誕生日をお祝いする会」が行われました。若い方々を中心に職種を超えたグループ「コミュニティ・デザイン・ミサト」が主催してくれた行事でしたが、町をもっと活性化したいという動きが町民からも生まれてきていることに大変有り難く思ったところです。

ところで、25年後、皆さんは何歳になっていますか？ちなみに私は87歳ということになります。25年後、それはご承知のとおり昨年の5月に日本創生会議が公表した「2040年人口減少問題。このまま何もしなければ896の自治体が消滅する」年です。あくまでも何も対策を

講じない場合であり、必ずしもそうなるとは思いませんが、ただ自分たちの周辺をみると高齢者世帯や空き家が増え、子どもたちが少なくなっているのが現実であり大変深刻な問題であります。ちなみに本町は1万2531人と推計されております。人口減少の中でも特に危惧されているのが若年女性人口（20～39歳）の減少ですが、全国の自治体の中では逆に若年女性人口が増加すると予測される自治体が幾つかあって、大潟村が全国で第2位と推計されています。増加率ベスト20のほとんどの自治体が、企業誘致型やベッタタウン型で成功していく中で、大潟村は農業で成り立つ産業開発型といわれ、地域資源を生かした産業振興を実現し雇用の拡大、住民の定着をはかる自立型であり目指すべきモデルとみられています。かつて農村は大きな労働力の市場でありましたが、そこに雇用を呼び

戻す展開ができるのか、農業のみならず地域資源をどう活かしていくかが一つのキーワードのように思います。この問題は昨年、中学生からも取り上げられ文化祭で発表されました。自分たちが40歳になった時、まちはどうなっているのか？中学生にも関心を持たれたこの問題。町でも議会でも検討をしておりますが、個人の生き方を尊重する時代であり特効薬はありませんが、それぞれ家庭の中でも考えていただければと思います。

町は合併の特例期間が終わり今年度から財政規模が縮小される時代に入りますが、「みんなでき」と「さ」と「ずつ」と「も」と「いい町へ」を目指して頑張ってまいりたいと思います。